

2009年1月19日

関 係 各 位

特定非営利活動法人
日本ライフセービング協会
理事長 小 峯



インターナショナル・サーフレスキューチャレンジ 2009(南アフリカ/ダーバン)に関わる
日本代表選手団不参加について

平素は当協会諸事業におきまして格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

はじめに、日本協会理事会は、2009年3月27日より南アフリカ共和国・ダーバンにて開催される標記大会を、当国内の治安不安定の影響を熟慮し、参加を断念せざるをえない結論に至りましたことを、ここに謹んでご報告申し上げます。

2年毎に開催されている本大会は、第1回大会がオーストラリアで2005年に開催され、続いて第2回大会(2007年/オーストラリア)、そして今回の第3回大会を迎えるに至っております。本大会はサーフ種目に特化した競技種目が設定され、参加国はオーストラリア・ニュージーランド・アメリカ・イギリス・南アフリカ・日本の6ヶ国で、開催地は参加国間での調整によって決定している大会であります。

本大会派遣に向けて、これまで外務省や旅行会社などを通じ現地情報を収集して参りましたが、渡航手配をはじめとする派遣締切の段階で、外務省の危険情報の発出レベルに変化(安全宣言や危険情報解除等)がなく、また、コレラ菌の流行情報やニュージーランドチームの参加辞退といった追加情報もあり、日本協会理事会はこれらの情報から総合的に判断いたしました。

日本協会は、2005年より参加を継続してきた立場から、この結論は残念と理解した上で、不参加というリスクを受けてでも、ライフセービングの理念である「事故防止」が全てに優先することこそ真のライフセービングと唱えているだけに、「生命の尊厳」を優先いたしました。

いずれにせよ、21世紀を担う若いライフセーバー(レスキューアスリート)らを失うようなことがあってはなりません。

よって、日本協会の最終決定は、日本のライフセービング界のオピニオンリーダーとしての歴史と社会的責任を熟慮し、「メダル」や「競技成績」よりも「生命の尊厳」を最優先することがライフセービングを代表する機関がとるべき決定であるとの結論に至りました。

ここに謹んで、関係各位にご理解いただきたく存じ上げます。

以 上